

【概要版】持続可能な地域づくりを推進するための社会教育行政の在り方（提言）

令和元年7月 福岡県社会教育委員の会議

資料2-2

I はじめに

地域学校協働活動に係る動向

社会教育施設（青少年教育施設）に係る動向

本県教育委員会における「鍛ほめ福岡メソッド」の推進

提言における2つの方向性

- 「鍛ほめ福岡メソッド」の視点を取り入れた地域学校協働活動（福岡モデル）の推進
- 本県社会教育施設（青少年教育施設）の改善の方向性

II 地域と学校が連携・協働した教育の推進

○本県の現状と課題

- ①子どもについて ②家庭について ③地域について ④学校について
- ・家庭の教育力の低下
- ・子どもの貧困率、児童虐待対応件数の増加
- ・地域における人間関係の希薄化
- ・「生きる力」の育成と教職員が子どもと向き合う時間の確保

○地域と学校の連携・協働による課題解決の方向性

地域と学校が連携・協働して取組を推進し持続可能な地域づくりを推進する本県独自の社会教育行政モデルを構築

「鍛ほめ福岡メソッド」の視点を取り入れた地域学校協働活動（福岡モデル）を推進

- ①「福岡モデル」について
- ・地域と学校が「鍛ほめ福岡メソッド」の理念と方法を共有した地域学校協働活動の実施
- ・地域課題解決に向けた、地域の多様な関係者による緩やかなネットワークの構築
- ・子どもから大人まで幅広い地域住民が連携・協働した地域活動の充実
- ②「福岡モデル」を推進するための方策
- ・地域と学校がパートナーとなる双方向の関係づくり
- ・子どもの教育にかかわる当事者としての意識の向上
- ・多くの地域住民による参画（若者、現役世代）
- ・社会教育主事（社会教育主事有資格者）の活用
- ・地域学校協働活動推進員の市町村による委嘱と研修の充実
- ・学校における地域連携担当教職員の配置

III 本県社会教育施設（青少年教育施設）の改善の方向性

○本県社会教育施設（青少年教育施設）の設置状況と課題

- 県立社会教育総合センター、県立英彦山青年の家、県立少年自然の家「玄海の家」を設置
- ・利用者の減少
 - ・施設の老朽化
 - ・施設の特徴を生かした体験活動プログラムの開発及び普及

○今後の本県社会教育施設（青少年教育施設）の改善の方向性と留意点

- ①施設整備と管理運営方式について
- ・指定管理者制度の導入
- ・県の方針への理解
- ②事業の充実について
- ・他部局や関係機関との連携、施設の特徴を生かした連携事業の充実
- ・「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた教材やプログラムの提供等の強化
- ・「現代的課題」や地域課題に対応したプログラムの開発と普及、学習機会の提供
- ・「鍛ほめ福岡メソッド」の視点を取り入れた体験プログラムの充実
- ③人材育成について
- ・社会教育主事の配置の充実とネットワーク化
- ・「鍛ほめ福岡メソッド」の活動サイクルを基盤とした指導・助言